

施設の自己評価（令和4年度）

あいわ保育園
園長 増田俊一

令和4年度に実施した『保育士の自己評価～「子どもを尊重する保育」のために～』の結果を元に、「保育の質」の観点より園の良い点・改善点を洗い出し、改善に向けた取り組みを整理しました。

I. 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり

- ・No.5の「いま忙しいから後にして」は、子どもとの信頼関係を築くためには、できる限り耳を傾けることが大事である。
- ・No.10の「おしっこが出ない」と訴えていても、トイレに促すのもNo.5と同様子どもの意思を尊重し、対応することが必要である。

（課題）

大人と子どもの関係ではなく、子どもの年齢（月齢）にかかわらず、一人の人格者として尊重することは保育者との信頼関係を構築する上で、とても大切な事だと考えなければならない。

II. 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ

- ・「寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。」

（課題）

午睡中に話をすることが他の子どもに迷惑であること、身体を休めることの大切さを言葉で伝え、子どもが納得して行動できるように配慮する。脅迫的な言葉かけは自発的な行動を阻害する。

III. 罰を与える・乱暴なかかわり

- ・「並ぶときなどに、子どもの自発的な行動を待たず、腕を掴んで引っ張る」などの行為は、脱臼等の怪我をする恐れがある。

IV. 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり

- ・保育士等は、自らの感性や価値観を振り返りながら、子どもや家庭の多様性を十分に認識し、それらを積極的に認め、互いに尊重し合える雰囲気をつくり出すことに努めることが求められる。

V. 差別的なかかわり

- ・子どもが将来、性差や個人差などにより人を差別したり、偏見をもったりすることがないように、人権に配慮した保育を心がけ、保育士等自らが自己の価値観や言動を省察していくことが必要である。

（園全体として今後の課題）

- ・保育者と園児は、「大人と子どもの関係」ではなく、人格者同士の関係でお互いを尊重できるよう、接することが大切です。
- ・不適切な保育を未然に防ぐために、大人同士のコミュニケーションを円滑にし、集計結果をもとに改善に向けたミーティングを行っていきます

